

これまでの名演への招待
シリーズ …… 2001-2019

2001 6.24 タリス・スコラーズ



2001 10.7 プラハ弦楽四重奏団

2002 10.12 スペイン慕情/ザ・ハーブ・コンサート

2003 2.27 ザ・チェコ・トリオ

2003 7.5 タリス・スコラーズ

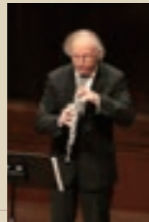
2004 12.19 ザ・シックスティーン
ヘンデル：オラトリオ「メサイア」

2005 6.15 フィリップ・ヘレヴェッヘ
ロイヤル・フランダース・
フィルハーモニー管弦楽団



2008 2.24 オランダ・パッサ協会
「ヨハネ受難曲」

2009 6.3 ピョートル・アンデルシェフスキ
ピアノ・リサイタル



2010 2.11 ハイイツ・ホリガーと仲間たち
スイス・チェンバー・ソロイスト

2011 1.21 アンサンブル・ゼフィロ
～超絶！木管アンサンブルの至芸

2011 12.4 オランダ・パッサ協会
「ミサ曲口短調」

2012 11.25 スティーヴン・イッサーリス
チェロ・リサイタル
"Beethoven Day"
with ロバート・レヴィン



2014 2.9 ブランデンブルク協奏曲全曲演奏会
～フライブルク・バロック・オーケストラ

2014 11.9 ゲヴァントハウス弦楽四重奏団

2015 11.15 メナヘム・プレスラー ピアノリサイタル (中止)

2016 9.17 アルノ・ボーンカンプ × 須川展也
サクソフォン・デュオ・リサイタル

2017 11.3 タンブッコ
パーカッション・
アンサンブル・コンサート



2018 11.4 スティーヴン・イッサーリス
チェロ・リサイタル

2019 11.3 山下和仁 ギターリサイタル

パトリツィア・ コパチンスカヤ

ヴァイオリン・リサイタル
with ヨーナス・アホネン
(ピアノ)



©Marco Borggreve

名演への招待シリーズ 20
パトリツィア・コパチンスカヤ
ヴァイオリン・リサイタル with ヨーナス・アホネン

日時 3月14日(火) 19:00
会場 森のホール
出演 パトリツィア・コパチンスカヤ (ヴァイオリン)
ヨーナス・アホネン (ピアノ)
料金 フレンドズ 4,500円
一般 5,000円
学生 2,500円
発売日 フレンドズ 1月7日(土)
一般 1月14日(土)



詳細はこちら▲

公演予告

名演への招待シリーズ 21
コリン・カーリー・グループ ～オール・ライヒ・プログラム

あのスティーヴ・ライヒが絶賛した、
コリン・カーリー率いるパーカッショングループが遂に長久手に登場！

日時 4月26日(水) 19:00
会場 森のホール
出演 コリン・カーリー・グループ
料金 フレンドズ 4,500円
一般 5,000円
学生 3,000円
発売日 フレンドズ 2月4日(土)
一般 2月11日(土)



こうして2010年代にはコパチンスカヤの名声は世界的なものとなり、
一体次に何をしでかしてくるのか？ 疑いようのない確かな技術と音
楽性を持ちながらも、常に刺激的な話題を提供してくれる存在なので
注目を集め続けているのだ。2021年にリリースしたアルバム『月に
憑かれたピエロ』では、ヴァイオリンではなく歌を披露(?)。大御所の
音楽評論家のなかには中毒的に魅せられてしまう人が出てきたりと、
もうコパチンスカヤはヴァイオリ
ニストという枠を超えた音楽家
であり、芸術家なのである。その
衝撃は実演に触れた時ほど大き
いので絶対に聴き逃がすべきで
はない！

小室敬幸 (音楽ライター)



©Julia Wesely
ヨーナス・アホネン (ピアノ)

クラシック界を席巻する
ヴァイオリンの鬼才
ついに長久手に登場!!

「楽譜に書かれていない、作曲者が原初に抱いていたイメージを
再創造しようとする」ことで、どんな古い音楽であつても「生きた音楽」と
して聴かせられる音楽家——それがヴァイオリニストのパトリツィア・コ
パチンスカヤである。1977年生まれの現在45歳だ。
東側にはウクライナ、西側にルーマニアが接する東欧の小国モルドヴァ
が彼女の祖国である。生まれた当時はソビエト連邦の統治下にあつた。
両親はソ連唯一のツインバロン奏者と、彼とデュオを組んでいたヴァイ
オリン奏者だったので、民族音楽と共に育つたといつても過言では
ない。それゆえにコパチンスカヤの演奏は、四角四面に楽譜通りであ
ることよりも、楽譜に書くことの出来ないその音楽の本質を掴み取
ろうとするのだろう。

ソ連崩壊直前の1989年に一家でオーストリアへ移住。オーストリア
のウィーンや、スイスのベルンで音楽の高等教育を受け、ヴァイオリン
だけでなく作曲も学んでいる。それが現代音楽への強い興味関心へと
繋がっているようだ。ウィーンやベルンでの学生時代から表現力豊かな
演奏をしていたが、周囲からは「やりすぎ」「過剰」と言われて必ずしも
評判はよろしくなかった。しかしコパチンスカヤは周囲の言葉にあわせて
角を丸くするどころか、自分のスタンスを貫くため、理解のある共演者
を探し求めていく。

その結果出会ったのが日本でもマスメディアに度々出演して有名に
なっていた鬼才ピアニストのファジル・サイだった。2008年のサ
イとの来日公演が話題となったことで、日本でも名が知られるよう
になっていく。もうひとつ2008年に重要だったのは、指揮者フィ
リップ・ヘレヴェッヘの指揮するシャンゼリゼ管弦楽団(古楽器オー
ケストラ)とベートーヴェンのヴァイオリン協奏曲を録音したことだ。
古今の大ヴァイオリニストが挑んできた作品だが、このコパチンスカヤ
の録音は歴代トップクラスに君臨する名演だと私は断言したい。